

ごんた坂

第29号
光陵高校同窓会会報

〈発行所〉 神奈川県立光陵高等学校光陵会

〈印刷所〉 SALAT 株式会社 サラト



©大塚あゆみ



▲内装 生まれ変わった体育館 外装▶



キャリアガイダンス講師一同の皆さん、中庭にて



光陵会総会への誘い

会長 太田 秀和(2期)

光陵高校の1・2・3期の卒業生は、権太坂の校舎で授業を受けていません。そのあとの卒業生でも、改修工事が終わった現在の校舎を知らない方はかなりいらっしゃるでしょう。ある大学では、卒業後50年が経つと入学式に全員招待されます。光陵でも、可能ならば、70歳以上の卒業生を学音祭などに招待していただくなどのことがあってもいいかもしれません。1期生の皆さんは、今年74歳になります。

卒業後の母校への思いは校歌、校舎、恩師、先輩後輩と接すること、そして同期生との再会などによって確かめられます。

校歌への思いは、「青春かながわ校歌祭」「学音祭」、野球部など校歌を歌える部活の応援など。校舎への思いは、「光陵祭」「学音祭」「体育祭」「光陵会総会」など。恩師への思いは、「光陵会総会・懇親会」「同期会」など。先輩、後輩への思いは、「部活のOB・OG会」「光陵会事務局」「青春かながわ校歌祭」「キャリアガイダンス」「光陵会

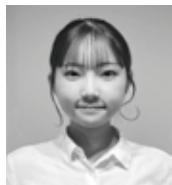
会員名簿」などでしょうか。

そして、いろいろな分野で活躍されている卒業生がたくさんいるのです。例えば私は、4期生の山本勉さん(日本美術史学者・日本彫刻史専攻)の講演会によく行かせていただきます。そうすると、ほかの光陵の卒業生に会うことができます。楽しいですよ。ほかにも音楽家、作家、演劇者、学者、企業人など生き生きと活動されているたくさんの卒業生がいます。

光陵会の総会の後には、活躍されている卒業生の特別講演があります。ご本人からの生きたお話は、楽しく、新しい発見があり、感動が多くあります。講演者の皆さんにとっても誇らしい時間になるはずです。

今年の総会でも素晴らしい特別講演があります。ぜひ皆さんも総会に出席して講演をお聴きください。

総会の後、場所を移して開かれる懇親会を同期会の場合として活用されている期もあります。皆さんと顔を合わせての歓談も復活しているのは何よりのよろこびです。光陵会総会に大勢の卒業生をお迎えできることを楽しみにしています。



取り戻される日常の中で

事務局長 池田 結香(54期)

体育館の耐震工事が終わりを迎え、制限のあった行事も元の姿を取り戻し、そして新しい風が吹きはじめようとしています。先日、56期生の卒業式に参列させていただきました。自分自身が高校3年生の頃高校1年生として入学した56期生が、今年卒業を迎えたということに時の早さを感じております。

私が大切にしている言葉の1つに、「Planned Happenstance(ブランドハップンスタンス)」というものがあります。卒業生代表の言葉をお話させていただいた際にも取り上げたため、覚えてくれている仲間もいるかもしれません。意味は「計画された偶然」。キャリアは偶然の出来事、予期せぬ出来事に対し、最善を尽くし対応することでつくられる、というものです。私たち54期は高校1年生の冬に、新型コロナウイルス感染症の流行と向き合い始めました。制限のある学校生活の中で、行事や修学旅行は中止となりました。悔しさが残る日々も多くありました。しかし、コロナ

禍での学校生活を通して私は「今を大切にする」ということはどういうことを深く学びました。光陵高校での生活、それこそは計画された偶然であったのかもしれない。

そして私は現在大学生となり、光陵会で事務局としての日々を過ごしております。勉学に励み、新しくできた友人たちや光陵会で出会った先輩方、後輩方に支えられています。卒業後の生活で学んだこと、それはコロナ禍や高校生活だけでなく、生きていく日常こそ「Planned Happenstance」であるということです。光陵高校での出会い、そして卒業後の光陵会での出会いに感謝し、これからも精進して参ります。

現在、光陵会ではオンラインと対面を併用し活動を行っております。昨年度は数年ぶりに総会・懇親会を対面でも実施することができました。いつでもどこでも参加しやすいオンラインという新しい風、そして実際に顔を合わせることができる対面という取り戻せつつある風を組み合わせ、偶然の出来事もチャンスにできる光陵会を目指して参ります。

最後になりましたが、会報の発行にあたってご協力いただいたすべての方々および支えてくださった皆様に心より感謝申し上げます。

光陵高校がカラフルに!?

変化していく制服規則

光陵のシンボルとも言える真っ黒な制服。皆さんは高校時代、どのように着こなしてましたでしょうか。

光陵高校の歴史の中で、カーディガンやセーターの着用色拡大やポロシャツの採用といった、様々な規則改定が行われてきました。また近年では、紺色のポロシャツの着用が認められ、夏の制服の着こなしに大きな変化が訪れました。

そこで今回は、光陵生の制服の着こなしや最近の制服規則改正についての調査を行い、実際に改正に携わった方へのインタビューを行いました。

瞬く間に変化していくファッショントレンドの中で、光陵生も自分なりの制服の着こなし方を追求しています。最近の光陵生の着こなしでは、夏には紺のポロシャツや長袖のワイシャツの袖まくり、冬にはカーディガンやセーター、トレーナー、パーカーなどがよく見られます。しかしこれらの服装は生徒がそれぞれの個性を表現するために自主的に着用しているものであり、長らく校則では認められていないものも多くありました。

そこで最近では生徒会執行部が主体となって、制服に関する規則改定に取り組んでいます。数年前にはカーディガンやセーターの着用可能色が拡大され、現在では「白、黒、グレー、ベージュ、紺、えんじ、深緑」が正式に認められています。また2023年度には、ポロシャツの着用可能色拡大を求める声があがり、カラーポロシャツの利便性の高さが受けて紺色のポロシャツが正式に着用できるようになりました。これらの活動の結果、色とりどりのカーディガンやセーターを着用する生徒や夏に紺のポロシャツを着用する生徒が以前にも増して多く見られるようになりました。

一方で、一定数の着用が見受けられるトレーナーやパーカーは依然として正式には許可されていませんでした。そこで54、55期生徒会執行部はこれらの着用が禁止される理由を明らかにし、着用が公認されるように学校側との協議に乗り出しました。55期が生徒を対象として行った制服規則に関するアンケートでは、多くの生徒のトレーナーやパーカーの着用を希望する声が確認出来たほか、「トレーナーやパーカーを禁止する理由が分からない」「TPOをわきまえた制服の着こなしが出来ているのであれば、制服規則の緩和を図るべきではないか」との意見が多数寄せられました。これらの意見をもとに長らく避けられていた学校側との制服規則改定に関する協議が実現しました。結果として、制服の在り方に対する考え方の違いから、トレーナーやパーカーの公式化には至りませ

ませんでした。しかし、一連の活動をもとに、より快適な制服を目指すべく提案されたカラーポロシャツは、昨年度許可され今年度から施行されました。

このように、生徒の着こなしの選択肢が増える制服規則の改定が行われる中で、多様性に配慮した制服の提案なども行われています。現在の女子制服にはスカートとパンツスタイルがありますが、女子用パンツスタイルは男子用のものを準用したものであり、女子用パンツスタイルの開発を図るべきとの声があります。実際にKUを通じて女子用パンツスタイルの開発を行っている生徒もいます。

光陵高校の真っ黒の制服は開校以来一度もその姿を変化させたことはありませんが、生徒達はその時々トレンドに合わせて着こなしを変化させてきました。そしてその傍らでは校則もまた生徒達のニーズに合わせて変化していることがわかりました。アルバムを見返すと、靴下や髪型、鞆などにも時代ごとの違いがあり、おもしろい発見もあります。みなさんも光陵を訪れる際には、今の生徒とご自身が学生だった頃の制服の着こなしの違いにも着目してみてはいかがでしょうか。

55期 亀井、55期 野本



(左) 従来着用していた白のポロシャツ
(右) 新たに着用が許可された紺のポロシャツ

進化する光陵の制服！！

～校則改定に挑んだ生徒会長に迫る～



2022年度生徒の声を受け、生徒会執行部が制服に関する校則改定に乗り出しました。そこで光陵会は改定を発案した54期生徒会長の池田さんと改定を進めた55期生徒会長の野本さんにインタビューを行いました。

（以下 池 54期生徒会長池田さん、野 55期生徒会長野本さん）

制服関連の校則改定に踏み出したきっかけは何ですか。

池 校則でトレーナーの着用は禁止されているにもかかわらずトレーナーを着ている生徒がいる一方で防寒のためにトレーナーを着たいのにまじめに校則を守っている生徒がいるという状況や、着ている生徒が必ずしも指導を受けるわけではなく先生によって校則に関する対応が異なるという状況に疑問を持ったことがきっかけです。

野 生徒会長になる以前から制服に関する校則には違和感を感じていました。生徒はカジュアルな格好が許されていないのに生徒の手本となるべき先生方がジャージなどラフな格好で授業をされていることはおかしいのではないかと疑問を持っていました。そして生徒会長になる際に池田さんがされていた活動を引き継ぐことに決めました。

お二人とも校則と実態がかみ合っていないことへの問題意識を持っていたため校則改定に取り組もうと思われたのですね。では改定を進めるにあたりどのような活動をしましたか。

池 まず職員室にトレーナー着用禁止の理由を聞きに伺いました。するとトレーナーを許可すると制服がカジュアルになりすぎてしまい、生徒の所属している学校を示すという制服の役割が失われるため許可できないと回答がありました。それであれば集会などフォーマルな場面以外での着用については議論できると思い校則改定に動き始めました。

野 私達の代では先生側と生徒側双方で制服に対する意見を統一することから始めることにしました。過去も校則改定は何代もかけて提案されていながら、一代で校則改定はなかなか実現していません。それであれば先生、生徒双方の意見のずれがなく議論を進めやすい環境を作ろうという結論になりました。特に重要な活動として生徒側の意見を統一するためにアンケートを行いました。その結果8割の生徒が制服に関する校則に対して不満を感じていることが明らかになり、そのことを生徒総会で議案

の提出を行いました。

地道な活動から校則改定を進めていったのですね。次に制服についての校則改定の中で苦労したことやその苦労をどのように乗り越えたかについてお聞きしたいです。

池 同級生達からは制服についての文句は届いても意見を出して校則を変えようという動きに協力的でなかったことです。私の感覚ですが光陵高校では何か意見があっても自分から行動を起こそうとは思わないという風潮があったように思います。そこで目安箱の活性化を促す活動を行ったり私個人に届いた意見を生徒会執行部の活動に反映し、生徒の意見が表面化するようにしました。

野 生徒側と先生側の板挟みになってしまったことに苦労しました。制服に対する認識を統一するために現状の制服についての校則をビラにして張り出したところ「暗黙になっていたルールを可視化しただけで制服改定のために活動していない」と生徒からの反発を受けてしまったことはつらかったです。貼ってあったビラが破かれていたことがありとてもショックを受けました。それでも執行部の仲間やクラスの友達に支えられてめげずに生徒側と先生側の双方の意見をまとめて橋渡ししとれるように努めました。結果、何ができたということは伝えたいですね。

最後に生徒会の活動を振り返っての感想や今後の制服の校則について意見はありますか。

池 制服の改定に向かい先生方と意見が食い違い、戦争（笑）のようになってしまったこともありました。ですが、先生方が真っ向から意見を聞いてくださったことが自分の中でとても大きな財産となりました。校則の規制緩和のためには生徒達が学校から信頼されることが必要なのでTPOを守る光陵生であってほしいです。制服改正のために活動しましたが光陵の制服には思い入れがあるので、今後は制服の伝統を守りつつも実用性や多様性の観点から柔軟に変化していったほしいですね。

野 生徒会執行部だけでなくクラスの友達など全校生徒の協力を得ての校則改定を行ったことが心に残っています。

また、制服に限らず身の回りにあるルールを鵜呑みにせずに疑問を持ち行動することの重要性を感じたので光陵生達には同じ姿勢を持ち続けてほしいです。



左から 52期 牧野、55期 亀井、54期 池田、55期 野本



当時の活動を振り返る生徒会長の二人

インタビュー 後記

制服についての校則改定に向けて生徒会役員の方々がとても苦労したことが分かりました。しかし、54期55期の活動の影響で56期生徒会執行部での校則改定が実現したのではないのでしょうか。光陵生たちにはTPOを守りつつ現状を改善する意識を持ってほしいものです。

55期 亀井、55期 野本

光陵高校の歌・応援歌の歴史に迫る！ 校歌祭で繋がる光陵生の輪

2023年10月21日、県立青少年センターホールにて第18回青春かながわ校歌祭が開催されました。光陵会の出場はなんと5年振り。久しぶりに光陵高校の歌と応援歌を披露することとで、光陵会学生スタッフが会場へ赴き、取材を行いました。

【校歌祭とは】 2006年よりかながわ校歌振興会が主催。県立高校の校歌や応援歌の振興と伝承を目的とする。光陵会は2007年より有志による参加を重ねてきた。

当日は、待ち望んでいた出場ということで参加する皆さんの気合は十分。会場は県立高校の同窓生で活気に溢れ、本番を前に揃いのTシャツや高校名の入ったのぼりなど各校の目印が色とりどりででした。在校生から80代の卒業生まで幅広い世代が、声を合わせて歌うことができるのが校歌祭です。光陵生の参加は有りませんでした会場には緊張した様子の高校生の姿もあり、吹奏楽やチアリーディングなど各高校の特色を発揮し、合唱にハツラツとした歌声を添えていました。光陵会の出番は18番目、カメラを向けると皆さん笑顔を見せながら、手を振って待機場所へと向かいます。光陵高校の歌と光陵高校応援歌の2曲を、26名と少ない人数ながら練習の成果を発揮し美しいハーモニーで響かせていました。本番後、感想を伺いました。「校歌はいい。歌うと昔を思い出す」第3回から参加する10期生の言葉です。今回が初参加の5期生は、50年振りに学友と光陵高校の2曲と再会したそうですが、メロディーは忘れることなく記憶に残っていたといいます。「高校時代初めて混声四部合唱の校歌を聞いた時は衝撃だった」と話してくださったのは校歌祭実行員の5期古藤田さんです。古藤田さん同様、入学して混声四部のハーモニーに驚いた方もいるのではないのでしょうか。今でこそ多くの高校が校歌を四部合唱に編曲していますが、作曲当初から混声四部合唱の校歌は滅多にありません。

光陵高校の歌が制作されたのは、1期生の卒業を控えた昭和43年。国語教諭の石渡英雄氏が作詞、毎日音楽コンクール作曲部門で優勝の三好明雄氏が作曲を担当し、当時は異例といえる混声四部編成の校歌が誕生しました。ですが、合唱曲である校歌も6期生までは主旋律以外を学ぶ機会がありませんでした。校歌が四部合唱で歌われるようになったのは、入澤洋子先生のご尽力があったからなのです。昭和47年度から62年度の26年間、光陵高校で教鞭をとられた先生は、音楽の授業で校歌の四部合唱を取り上げられました。そのため7期生からは校歌を四部合唱曲として歌ってきたのです。入澤先生がご退任された今では、光陵高校の歌が学音祭の1年生課題曲となり、全校生徒に校歌の四部合唱を学ぶ機会があります。校歌祭で幅広い世代が一体となって美しいハーモニーを奏でる光陵高校の歌の背景には、偉大な先生方の存在がありました。

卒業後も同期会等で歌われ光陵生を繋いできた光陵高校の歌に加え、光陵生の青春を彩った歌として応援歌も忘れてはなりません。校歌祭でも演奏された1曲ですが、実はここ20年間、

現役生の歌う機会がほとんどないのです。光陵高校の歌と同年に作られた応援歌ですが、今でも歌い継がれる光陵高校の歌とは対照的に、その存在を知る現役生は僅かです。いつからか、体育祭や光陵祭で歌われることもなくなり、応援歌を知る世代の卒業と共に応援歌の文化は失われていきました。しかし、卒業生によって応援歌は進化を遂げています。当時の光陵生は無伴奏で斉唱していましたが、2011年の第6回校歌祭からは作曲者戸塚氏によりピアノ伴奏と混声合唱譜が制作されました。伝統が途絶えたかのように見えても、新たな形の応援歌は確かに光陵の中で形を変えながら歌い継がれています。

今回の取材で、筆者(54期)は初めて応援歌を耳にしました。ピアノの重音に始まり、皆さんが一体となって奏でる、歯切れのよいリズムと力強い歌声に圧倒されました。校歌はもちろん、練習を重ねた美しいハーモニーが素晴らしく素敵でした。本番後の打ち上げでも間近で演奏を聴き、音楽の楽しさや母校との結びつきを改めて感じました。現役時代には関わりのなかった方々との出会いも、校歌祭の魅力の1つです。先輩方との交流も、音楽を通じて気兼ねなく楽しみました。読者の皆さんも、校歌祭と一緒に歌ってみませんか。学生時代を懐かしみ、新たな応援歌のハーモニーを奏でましょう。

次回の第19回校歌祭は、2024年9月21日(土)にひらしん文化芸術ホールにて開催されます。練習日の予定や参加費(楽譜印刷代など、昨年は500円)など、今後の詳細につきましてはホームページ等でお知らせします。お問い合わせは光陵会ホームページ(<http://koryokai.jp>)の「お問い合わせフォーム」まで。本番当日のみの参加も可能です。皆さまのご参加をお待ちしております。

54期 堀部



校歌祭参加者の集合写真

青春かながわ校歌祭 のお知らせ

日時：2024年9月21日(土)

会場：ひらしん平塚文化芸術ホール
(JR平塚駅徒歩8分)

開催案内

主催：かながわ校歌振興会

共催：神奈川県教育委員会



本番、美しいハーモニーを会場に響かせた

光陵クイズ

現役生の校歌や応援歌の認知度を調査するために、アンケートを行いました。その際、より楽しく光陵について知るために、「光陵会からのKST【光陵レベルチェック】」と題して、クイズ形式で実施しました。集まった回答からは興味深い結果が見えてきました。ぜひ皆さんも挑戦してみてください。めざせ、「光陵マスター」!!

Q.1 「光陵高校で歌われる歌はどんなものがあるでしょうか？」

- ①『光陵高校の歌』がある
- ②『光陵高校の歌』と『応援歌』がある
- ③『光陵高校の歌』と『校歌』がある
- ④『光陵高校の歌』と『ごんたんの歌』がある

Q.2 「現在『光陵高校の歌』の音源は55期8組の歌声ですが、初めてレコードに録音された歌声は何期生のものなのでしょうか？」

- ①1期 ②3期 ③5期 ④7期

Q.3 「中庭に設置されていたオブジェ（写真参照）の素材はなんですか？」

- ①発泡スチロールと針金
- ②丸太と人工大理石
- ③プレハブ校舎の廃材
- ④赤点のテストの結晶

Q.4 「KSTとは何の略称でしょうか？」

- ①光陵 study time
- ②光陵小テスト
- ③光陵 smart teaching
- ④光陵睡眠タイム

Q.5 「光陵高校1期生から40期生までの東大合格者の累計人数は何人でしょうか？」

- ①7名 ②76名 ③267名 ④367名

いかがだったでしょうか。知っている問題、知らなくてもすぐに分かる問題、答えに悩む問題、人によって様々だったのではないのでしょうか。気になる現役生の回答と答えは…右記のQRコードからぜひ確認してみてください!



卒業生からの便り

- 「ごんた坂」誌の太田会長の野球部応援記事を拝見して、昨秋の県大会の応援に行ったことを思い出しました。その試合は残念でしたが、次は熱戦を期待しています。(11期)
- Wikipediaの「権太坂」には、「坂」の写真ではなく、「母校」の写真が掲載されていることに衝撃(?)を受けました。確かに同窓会会報は「ごんた坂」ですが。(12期)
- いつも役員の皆様、ありがとうございます。最近吹奏楽部で一緒だった同級生と繋がりができ、光陵時代を懐かしむ機会ができました。(13期)
- 先月60歳の定年を迎え36年従事した会社を退職し、素晴らしい仲間とやりたいことに専念出来る小さな会社を始めました。いろいろなことをムキになってやっていた若い光陵の頃をとて懐かしく思います。同期の皆さまもまだまだ元気で御活躍中かな。(14期)
- 卒業から40年、光陵高校が変わらずサスティナブルであることに感銘を受けています。陰ながら引き続き応援致します。(15期)
- 先日、演劇部の同期と会いました。貴重な高校時代の思い出を共有する仲間とは、何年か離れていても、すぐに打ち解けて話せることを嬉しく思いました。(15期)
- 卒業してから、あっという間に40年も経ってしまいました。私達の代は学校と同一年なので、お互いにもうすぐ60周年。未来に向けて、光陵と共にアップデートしていきたいです。(15期)
- 私の頃は文系も理系も理科・社会がフル装備のカリキュラムで本

当に大変でしたが、いろいろかじったことは大学での学びにも就職後にも大いに役立ちました。先生方、あの頃は文句タラタラ言っていたスミマセンでした!(17期)

- 娘が大学生になり、入学式で学校ならではの先輩からの歓迎があり、自分が光陵に入学したときの応援団の「押忍」を思い出しました。会社に入社したときにも息子さんの奥さんが光陵卒という上司から「光陵にはそういう伝統があるんでしょ?」と聞かれました。卒業して早30年以上、そんな伝統が今はどうなっているのか、気になったりします。(24期)
- 大学は福岡、結婚で京都。もう人生の半分以下ですが「出身は横浜!」と自信を持って言っています。実家も無くなったのでつながっているのは、この同窓会だけになってしまいました。なので会報を楽しみにしています。(24期)
- 今は面白い部活がたくさんあるんですね。自分の部活は今どんな様子だろうと気になりました。(41期)
- コロナで延期になっていた51期同窓会を無事開催することができました。久しぶりの再会ができたり、光陵の懐かしい雰囲気を感じたりと楽しかったです。また機会があればぜひ!(51期)

「ご意見募集のお知らせ」

光陵会では会員の皆様のご意見・ご感想を、総会懇親会出欠登録用のWebフォーム内で募集しております。光陵高校で過ごした思い出や会報を読んで思い出されたことなど、ぜひお聞かせください。来年度の『ごんた坂』で一部をご紹介しますことができます。

光陵の教壇に 立ってみませんか?

光陵高校では毎年3月に、1・2年生対象の「キャリアガイダンス」というプログラムを実施しています。キャリアガイダンスとは、さまざまな分野で活躍する卒業生が、仕事の内容や進路選択の過程を現役生にお話しし、将来のキャリア形成に役立ててもらおうというものです。

2023年度は、3月9日(土)に対面形式とオンライン形式で併用開催され、十数名の卒業生にご協力いただきました。弁護士、映像制作業、言語聴覚士など各界の卒業生のお話に、現役生は真剣に耳を傾けていました。幅広い業種に従事する講師らが高校時代の体験談を交えて熱く語る講義は、現役生にとって将来のキャリアを考えるきっかけになるとともに、社会に出た光陵の先輩とのつながりを感じられる貴重な機会です。また、講師同士が異業種交流を通じて光陵の絆を再確認する場ともなっています。

キャリアガイダンス講師募集のお知らせ

光陵会は講師をしていただく卒業生を光陵高校にご紹介する形で、このプログラムに協力しています。趣旨に賛同していただき、講師としての参加に関心のある方はぜひ「光陵高校内光陵会」(住所: 保土ケ谷区権太坂1-7-1、メールアドレス: staff@koryokai.jp)までご連絡ください。

また、光陵会では卒業生にご職業などの人材情報を登録していただく「光陵卒業生人材バンク」を運営しております。人材バンクの情報はキャリアガイダンスへの講師紹介などに活用させていただきます。ご協力いただける方はぜひ上記連絡先までご連絡ください。



卒業生の講義に熱心に耳を傾ける光陵生たち

会報発行協力金をお願い

会報発行協力金にご協力いただき、誠にありがとうございます。

本会報の発行は2009年から名簿委託業者である(株)サルトとの共同事業の契約とし、会報発行費用は最大負担額を定めた独立採算制となっております。会員の皆様には、会報発行費用について賛助協力金として1口3,000円をお願いしております。本年度もコンビニエンスストアで決済可能な振込用紙を、失礼を承知の上で同封させていただきました。

昨年度よりPayPayなどのスマホ決済も可能となっております。

光陵会事務局は今後も存続し、母校への発展寄与のため力を尽きてまいりたいと一同強く願っております。何卒、皆様のご理

解とご協力をお願いいたします。また、従来からお願いをさせていただいております光陵会への直接の賛助金も受け付けておりますが、これを機会にぜひ会報発行協力金にご賛同いただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

※ 会報発行協力金は発行費用(約200万円)を上回ります賛助協力金をいただけた場合、上回った分の8割が光陵会への賛助となる仕組みです。

※ 同封の振込用紙は、郵便振込を利用されますと金額の訂正が可能となります。コンビニエンスストアやPayPayなどを利用される場合は一律3,000円となりますのでご注意ください。

寄贈事業報告

光陵会では毎年、光陵高校に寄贈を行っております。2023年度は学校側からの寄贈品の希望が無かったため、寄贈は実施いたしませんでした。今後も有意義な寄贈が行えるよう取り組んでまいりますので、会員の皆様のご意見・ご要望がございましたら、ぜひ同封のハガキでお寄せいただけますと幸いです。

同窓生向け SNSのご案内

卒業後の交流の場として同窓生向けSNSが運営されています。加入希望、お問い合わせは下記へお願いいたします。たくさんの方のご参加をお待ちしております。

URL: <http://www.koryo.gr.jp/sns/>

MAIL: koryo-kai-request@koryo.gr.jp

運営: 光陵会メーリングリスト (koryo.gr.jp)

母校の最新情報

【進路状況】



<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/koryo-h/shinro/shinrojoyoukyo.html>

【部活動実績】



<https://www.pen-kanagawa.ed.jp/koryo-h/seikatsu/bukatsudou.html>

【教職員異動】



<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/y4g/prs/r7218175.html>

■ 2023年度総会・懇親会報告

開催日：6月10日(土)

総会

@アットビジネスセンター横浜西口駅前

以下の議事項目がすべて承認されたことをご報告いたします。

①2022年度決算報告 ②2023年度予算案審議 ③2023年度役員及び監査承認

特別講演

公益社団法人日本写真家協会(JPS)国際交流委員会委員長を務める秋山哲也氏(9期)に「写真は記録～視覚・音声情報を記録しようとする体験がみちびいてくれたもの～」というテーマで、戦争や紛争の様子を取材した写真・映像から視覚的な情報記録の重要性についてお話いただきました。

📖 会員名簿の取扱いについて

光陵会では、2025年4月に会員名簿の発刊を予定しております。光陵会では会員以外に会員名簿を配布することは一切なく、会員各位の情報が外部に漏れることのないよう、プライバシーマーク取得企業で名簿委託業者の(株)サルトとともに厳重に管理しております。皆様も名簿の取扱いには十分ご注意の上、外部への流出がないよう、ご配慮ください。

また昨今、光陵会の名を騙り、会員の皆様の勤務先への問い合わせや勧誘・物品販売などが行われているようですが、これらは**光陵会とは一切関係ございません**。内容を確認の上、適切にご対応くださいますようお願い申し上げます。

なお、7月下旬頃に委託先(株)サルトより「名簿掲載内容ご確認用はがき」が一斉に発送されますので、届きましたら内容をご確認ください。名簿のご購入についてもおはがきでお申し込みができますので、ぜひご協力をよろしくお願いいたします。7月下旬以降は事務局でもお申し込みを受け付けますので、会員名簿のご購入を希望される方は下記までお問い合わせください。事務局の定例作業等での対応となりますため、お手続きには1ヵ月程度のお時間をいただく場合がございます。期間の余裕をもってご連絡いただけますと幸いです。なお、会員名簿の販売は、原則お一人様1冊までとなります。

宛先:「光陵会事務局メールアドレス」 staff@koryokai.jp

会計報告

2023年度決算

(2023/03/01~2024/02/29)

(収入の部)

入会費・終身会費	¥3,060,000
懇親会会費	¥476,000
賛助金	¥16,000
名簿売上	¥7,000
その他	¥214
前年度繰越金	¥28,837,958
合 計	¥32,397,172

(支出の部)

通信費	¥208,107
事務費	¥19,425
運営費	¥593,470
交通費	¥93,406
総会懇親会費	¥615,800
H P 運用費	¥24,200
会報費	¥468,045
校歌祭費	¥52,000
光陵祭費	¥71,497
高校寄付費	¥0
設備予備費	¥100,782
合 計	¥2,246,732
収支差額	¥30,150,440

2024年度予算案

(2024/03/01~2025/02/28)

(収入の部)

入会費・終身会費	¥3,040,000
懇親会会費	¥500,000
前年度繰越金	¥30,150,440
合 計	¥33,690,440

(支出の部)

通信費	¥300,000
事務費	¥60,000
運営費	¥630,000
交通費	¥120,000
総会懇親会費	¥500,000
H P 運用費	¥50,000
会報費	¥530,000
校歌祭費	¥100,000
光陵祭費	¥120,000
高校寄付費	¥400,000
設備予備費	¥240,000
合 計	¥3,050,000
収支差額	¥30,640,440

懇親会

@「グレースバリ」(横浜ハマボールイアス店)

新型コロナウイルス感染症が2023年5月から「5類感染症」に移行したことを受け、4年ぶりの対面での開催となりました。今年度も対面での開催に向けて、事務局にて準備を進めております。

～ 賛助金への御礼 ～

2023年度は4名の方から計16,000円のご支援を賜りました。皆さまの温かいお心遣いに深く感謝いたします。

引き続き充実した同窓会運営に努めてまいりますので、今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

2023年度光陵会役員・監査・事務局

会 長	太田 秀和(2期)	
副 会 長	大道 正夫(4期)	山本 勉(4期)
	茅野 憲(7期)	中濱こずえ(9期)
	荒木 宏之(19期)	藤原 直人(31期)
理 事	虻川 真紀(25期)	増田 祐徳(36期)
	金子 周平(38期)	佐藤 楓(42期)
	藤居 悠人(43期)	山本 航介(43期)
	佐藤 菖(44期)	長尾沙津季(46期)
	加藤 圭祐(49期)	
会 計	菊名 直人(42期)	寺田 祐晟(52期)
	于 棋棋(52期)	伊藤 空也(53期)
	成瀬 佑(54期)	笠間 結斗(55期)
監 査	上原 武(25期)	高橋 芳昌(33期)
	柘植 貴之(41期)	萬 紗帆(46期)
	中村 風沙(49期)	
事務局長	池田 結香(54期)	
副 局 長	牧野 暖登(52期)	高橋 歩希(52期)
	南 香帆(52期)	野本 優菜(55期)
書 記	吉川 佳歩(52期)	山野上葉音(53期)
	長島 海咲(53期)	堀部 琴(54期)
	岡田 裕希(55期)	田辺 春佳(55期)
	長谷川 肇(55期)	清水さゆり(55期)

2024年度光陵会役員・監査・事務局

会 長	太田 秀和(2期)	
副 会 長	大道 正夫(4期)	山本 勉(4期)
	茅野 憲(7期)	中濱こずえ(9期)
	荒木 宏之(19期)	藤原 直人(31期)
理 事	安保 久(17期)	虻川 真紀(25期)
	増田 祐徳(36期)	金子 周平(38期)
	佐藤 楓(42期)	藤居 悠人(43期)
	山本 航介(43期)	佐藤 菖(44期)
	加藤 圭祐(49期)	
会 計	菊名 直人(42期)	寺田 祐晟(52期)
	于 棋棋(52期)	成瀬 佑(54期)
	笠間 結斗(55期)	田中 愛実(56期)
	榎田 空(56期)	
監 査	上原 武(25期)	高橋 芳昌(33期)
	柘植 貴之(41期)	萬 紗帆(46期)
	中村 風沙(49期)	
事務局長	野本 優菜(55期)	
副 局 長	高橋 歩希(52期)	南 香帆(52期)
	池田 結香(54期)	大石 拓空(56期)
	是澤 萌愛(56期)	
書 記	牧野 暖登(52期)	堀部 琴(54期)
	清水さゆり(55期)	亀井 るな(55期)
	横山 凛久(56期)	高橋 優玖(56期)

2024年度 光陵会総会・ 懇親会のご案内

2024年 6月15日(土)

総 会

14:00～16:00(13:30開場予定)

場所：ビジョンセンター横浜西口302号室

(神奈川県横浜市西区北幸2-5-15)

オンライン開催(Zoom使用)も併用します

会費：無料

<議事次第(予定)>

- 1 2023年度決算・監査報告
- 2 2024年度予算案審議
- 3 2024年度役員及び監査承認
- 4 事務局活動報告等
- 5 特別講演



総会特別講演

「子供の心と体の育成一大谷翔平になるために」

講 師： ^{いわま}岩間 ^{てつ}徹 氏

光陵高校1988年卒(10期生)
潤生会岩間整形外科 理事長

略 歴

昭和60年 東京慈恵会医科大学卒
昭和62年 東京慈恵会医科大学整形外科学教室入局
昭和63年 東京慈恵会医科大学整形外科学教室 助手
平成5年 町立波田総合病院 整形外科科長
平成8年 医療法人社団高山整形外科病院 整形外科部長
平成13年 潤生会岩間整形外科 副院長
平成19～令和元年 東京慈恵会医科大学整形外科学教室 非常勤講師
平成20～平成22年 立教大学スポーツウェルネス学科 非常勤講師
平成21年 潤生会岩間整形外科 理事長

資 格 医学博士、日本整形外科学会認定専門医、日本整形外科学会認定スポーツ医所属学会、日本整形外科学会(前スポーツ委員会委員)、日本臨床整形外科学会(スポーツ委員会委員長)、日本整形外科学会スポーツ医学会(代議員)など

スポーツ医活動 運動器の健康日本協会・成長期スポーツ外傷予防啓発委員会委員、日本整形外科学会「子どものスポーツとロコモ」WGメンバー、横浜野球肘検診推進協議会代表、日本リトルシニア野球協会顧問医、神奈川県高校野球連盟メディカルサポート責任者、横浜市港南区体育協会顧問、スポーツリズムトレーニング協会アカデミックアドバイザー

受 賞 平成26年 横浜市スポーツ功労賞受賞
平成29年 神奈川県医師会学術功労者受賞

以前は元小結舞の海、元プロテニスプレーヤーの沢松奈生子、元メジャーリーガー野茂英雄、松井稼頭央、西武ライオンズ和田一浩らの主治医を。現在はEXILEトライブの主治医、EXPG高等学院学校医を務めている。また長年にわたり地域医療に貢献する中、成長期スポーツ障害の防止活動をライフワークとして活動している。大学まで野球部に所属、少年野球や少年サッカーの指導者経験を持ち、スポーツに深く関わっている。

懇 親 会

17:30～19:30(17:00受付開始)

場所：横浜イアス グレースバリ7階 プルメリアカフェ
(横浜市西区北幸2-2-1ハマボールイアス7階)

会費：一般料金 8,000円
特別料金(現旧職員) 5,000円
(学 生) 1,000円

会場アクセス

横浜駅みなみ西口より
徒歩7分

横浜市営地下鉄
横浜駅9番出口
徒歩4分



出欠(委任状)登録、会員情報変更のWeb利用にご協力ください

個人情報管理、経費削減、負担軽減等の観点から、Web上での出欠(委任状)登録を原則とし、それ以外の方法をご希望の方のみ、郵便はがきでのご登録とさせていただきます。ご理解、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

<出欠(委任状)登録方法> 登録期限:5月24日(金)

Web【原則】：光陵会ホームページ (<http://koryokai.jp/>) 内の専用フォーム

郵便はがき：会報同封のはがきに記入して郵送



総会・懇親会
出席フォーム

皆さまのご参加を心よりお待ちしております。